

顔面外傷・顔面骨骨折



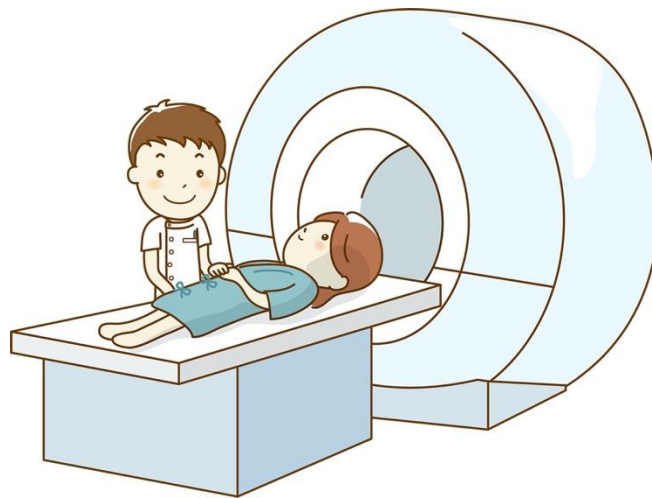
顔は転倒、交通事故、スポーツ、殴打などで損傷を受けやすい部位です。

顔面外傷では機能(表情・目の動き・咀嚼・感覚など)に加えて、見た目を綺麗に治すことが重要です。

切り傷・打撲・顔面骨骨折・外傷後の傷痕・熱傷(やけど)など、顔の傷では専門家である私たちにお任せください。

検査

傷の見た目・表情筋の動き・感覚の確認などの診察に加えて、必要に応じてレントゲン・C T・超音波検査などを行います。また、頭痛・吐き気・首の痛みがある場合には、脳神経外科・整形外科の受診が必要な場合があります。適切に検査や専門医の紹介をいたします。



治療

切り傷

ある程度の深さのある傷では局所麻酔の上、縫合します。麻酔は歯科でも行われるような一般的な注射です。

傷を目立たなくするには、綺麗な縫合+術後の軟膏やテーピングなどの処置が重要です。私たちは、細い糸を使い、顔の部位ごとに縫い方を変えるなどの工夫をして丁寧に縫合し、傷の状態に合わせて適切な処置をお伝えします。

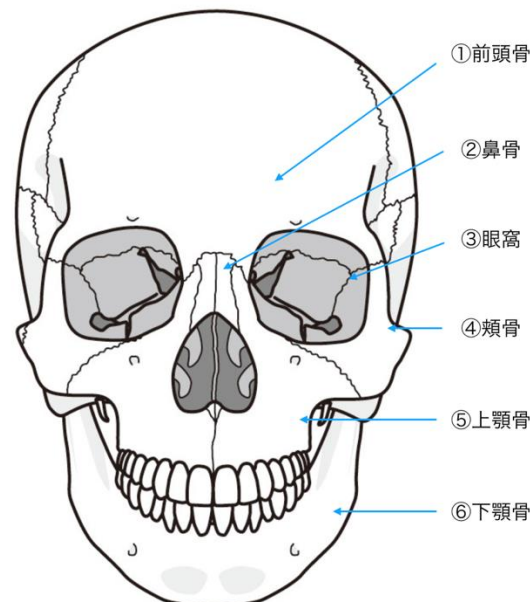
傷を0にすることは出来ませんが、可能な限り目立たないようにいたします。

軟部組織損傷

顔の外傷では涙小管・顔面神経・唾液腺などの組織損傷が起こる場合があります。

適切な治療をしないと、目が閉じない・涙がこぼれる・よだれが出るなど思わぬ後遺症を残すことがあります。必要に応じて神経や・管の縫合をします。

顔面骨骨折



顔面骨は前頭骨・鼻骨・頬骨・上顎骨・下顎骨などいくつかの骨から構成されます。

顔の骨折は見た目に大きく関わることから、整形外科ではなく形成外科が専門となります。

① 前頭骨骨折

見た目に大きく関わります。額の凹みがある場合に整復・固定する手術を行います。

② 鼻骨骨折

一番頻度が高い顔面骨骨折です。鼻の変形が目立つ場合や鼻詰まりの症状がある場合に手術を行います。鼻が腫れて変形が分かりにくい場合には一旦様子を見ることがあります。成人の受傷早期の場合の手術は局所麻酔+日帰りで行えます。術後は鼻の中に詰め物+外からカバーをつけます。



(カバーをつけた状態)

③ 眼窩骨折

目の周囲に強い力がかかることで起きる骨折です。物が二重に見える・目を動かすと痛む・眼球が凹むなどの症状が有る場合に手術を行います。全身麻酔で整復・固定します。吐き気や痛みが強い場合には緊急手術が必要なことがあります。

④ 頬骨骨折

頬の変形・痺れ・口が開かないといった症状がある場合に手術を行います。全身麻酔で顔面の皮膚(瞼の下・眉毛の横・口の中など)を切開し、プレートを挿入し整復・固定を行います。

⑤ 上・下顎骨骨折

顎の骨は咀嚼に関わるため、他の顔面骨より固く厚く出来ています。口が開かない・噛み合わせが悪い・口を動かすと痛みが出るなどの症状がある場合に手術を行います。手術後は噛む力で骨がずれないように、スクリューで数週間、顎の固定をします。

プレート固定について

骨折部位の骨を元の形に戻す(修復)した後、プレートとスクリューを使って固定します。時間をかけて体内に吸収されるものと、金属製(チタン)のプレートがあり、骨折の部位や折れ方によって使い分けます。金属製プレートでは骨折治癒後にプレート抜去の手術が必要な場合があります。